

六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会

「六ヶ所村 歴史フォーラム2013」開催 実施要項

1. 目的

当会設立以来の研究テーマである、当地が“尾駁の牧”の比定地であり、平安時代、馬の交易によって京の都とつながっていたのではないかという歴史的背景へ、より具体的且つ学術的に近づくため、村外の著名な講師陣をお招きし、その専門的な立場から意見を述べてもらい、その学術的研鑽を、後世への知的財産として蓄積することを目的として開催する。併せて、この当村の薫り高い歴史文化の新たな側面を、村内外へ情報発信することを目的とする。

2. 発表の要旨

今フォーラムは昨年に引き続き、「尾駁の駒・牧」の歴史を、平安時代の貴族の日記・「古記録」と呼ばれる文献史料から、より具体的且つ詳細にその背景に迫って見るものである。

そこで、第一番目の基調講演としては、「藤原道長と“競馬(くらべうま)”そして尾駁の駒」という発表テーマの中で、千年前の権力者の直筆の日記であり、ユネスコ世界記憶遺産でもある『御堂関白記』や『小右記』等の高級貴族官僚の日記から、頻繁に競馬の儀礼が執り行われた背景を通して、尾駁の駒が珍重されていたろうとする考察を分析・検証する。

第二番目の基調講演としては、「平安文学に見る“高名の帯”」という発表テーマの中で、当地の遺跡から出土した「白玉帯」ともされる「石帯」出土の意味を考える上からも、平安貴族の“帯(石帯)”に対して持つ世界観について、古記録の文献史料も併せ見ながら分析・検証する。

そして、パネルディスカッションにおいては、テーマ「古記録の世界と尾駁の駒 —撰関期における馬と帯の持つ意味—」として、当地が“尾駁の牧”と比定され、京の都と馬交易においてつながっていたのではないかとする考察に言及するべく、尾駁の駒の背景についてディスカッションする。

3. 開催日時 平成25年 9月 8日(日) 午前9時30分～午後14時40分まで
4. 会場 六ヶ所村文化交流プラザ・スワニー「大会議室」(第1・2大会議室)
5. 入場料 無 料
6. 主催者 六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会

7. 主な日程と内容 「六ヶ所村 歴史フォーラム2013」

9:30 ~ 9:35	1. 主催者挨拶
:35 ~ :40	2. 来賓祝辞
9:40 ~ 10:00 (9:55~10:00)	3. オープニングアクト (20分) 舞楽「蘭陵王(らんりょうおう)」(競馬・勝負楽) 〔休憩 5分〕
10:05 ~ 11:15	4. 基調講演① (70分) 研究テーマ「藤原道長と“競馬(くらべうま)”そして尾駁の駒」 (倉本 一宏氏: 国際日本文化研究センター教授)
(11:15~ :25)	〔休憩 10分〕
11:25 ~ 12:35	基調講演② (70分) 研究テーマ「平安文学に見る“高名の帯”」(飯沼 清子氏: 國學院大学講師)
(12:35~13:15)	〔昼食 40分〕
13:15 ~ 14:15 (14:15~ :20)	5. パネルディスカッション (60分) ※内、質疑応答 15分 〔休憩 5分〕
14:20 ~ 14:30	6. 顧問挨拶 (10分)
14:30 ~ 14:40	7. エンディングアクト (10分) 雅楽演奏「長慶子(ちょうげいし)」